１・２年探究科学科　リーダー育成講演会・座談会　～Meet the New World～

11月４日（水）、１・２年リーダー育成講演会・座談会が行われました。

株式会社マザーハウス代表取締役副社長の山崎大祐さんをお迎えし、「マザーハウスの挑戦と世界のリアル～途上国から世界に通用するブランドをつくる～」というテーマでお話いただきました。マザーハウスは、「途上国から世界に通用するブランドをつくる」を理念に掲げ、途上国の可能性を最大限に引き出すため、商品の素材開発から製造、お客さまにお届けするまでを一貫しておこなっている企業です。本講演会・座談会は、【 20周年プロジェクト・Meet the New World 】の一環として実施されました。

前半は、マザーハウスの事業内容や、事業の根底にある大切な理念・価値観をご紹介いただきました。「『途上国』と一括りにされた場所にも、個性的な輝きを放つ素材があり、誇りある職人の技術があり、多様性あふれる固有の文化がある。だからこそ、現地の職人さんには、自分たちの工場を『第二の家』として、自信をもって仕事をしてほしい。そして、自分たちのモノづくりの先に、その商品を待つお客さまがいることを実感してほしい。」その言葉の一つ一つからは、目先の利益だけにとらわれず、社会にとって本当に価値のあるものを生み出していきたいという強い信念が感じられました。
後半は、山崎さんご自身、そして代表取締役社長 兼 チーフデザイナーの山口絵理子さんの生い立ちや学生時代の話から、なぜマザーハウスを創業するにいたったのか、その想いを熱く語っていただきました。お二人とも、人生の中で感じた強い違和感を力に変えて、既存の常識にとらわれない挑戦を続けています。生徒たちは、それぞれの観点で感じることや刺激があったようで、講演後、興奮冷めやらぬ様子で感想を語っていました。

講演会終了後に希望者参加で行われた座談会では、一人一人の質問に丁寧に答えてくださり、あっという間の１時間でした。高校生活の悩みから、リーダーとしての心構え、将来の目標に至るまで、高校生に向けた温かいアドバイスと力強いメッセージをいただき、心に響く言葉の数々に一歩踏み出す勇気をもらいました。これからも私たちに、グローバルリーダーとして世界で活躍するその背中を見せ続けてください。私たちも、グローバルリーダーを目指して一歩ずつ歩みを進めていきます！

生徒の感想
・講演を聞き、途上国には無限の可能性があると改めて気づかされました。マザーハウスは現地でしか作れない素材や技術を活かし、誰もが笑顔になれる温かいもの作りをしていると知り、外国の生産者と顧客がつながる仕組みに感銘を受け、私も自分の視野を広げ、社会のためにできることを考えたいと思いました。

・「工場を第２の家とする」という考え方に触れ、想像もしていなかった価値観に深く感銘を受けました。勉強だけでは答えが見つからない現実を知り、現状を自分の目で確認することの大切さを実感しました。

・発展途上国はこんなことが問題なんだ、ということばかり学校では学ぶので、なんだかわかっているような気になってしまっていたけど、今回のお話を聞いて、自分でしっかりとその現場を見ることが、自分の隠れた興味や力などを引き出せると学んだ。起業という言葉を聞くと、とてもハードルが高く難しいことだとは思うけど、行動力がとても大事だと聞いて、私もこの現状を変えるために今すぐに行動を起こしていきたいなと思った。

・海外はリスクではなくチャンスだという考え方は痺れざるを得なかった。また、「楽観的であれ」という言葉はかなり納得したが、自分は楽観的すぎて投げやりになるところがあるので、ただ真に受けずよく考えたいと感じた。そしておっしゃっていた「いろんな人に自分のことを伝えることが自分にチャンスをもたらす」ということは考えたことがなかったので、これからは意識を変えようと感じた。

・MOTHERHOUSE さんが対等に途上国と向き合っている様がとてもよく伝わった。写真に映っている人たちの顔が明るかった。途上国の問題に向き合っていると言っても、どこか先進国から上から目線で物事が進んでいると感じられることがよくあるが、今回はそれが無かった気がした。つらい少年時代を乗り越え、経済的弱者の辛さを知っていることを糧にできているのもすごい。利益は二の次で、人を救う一心で外国語を一から学び、多種の学問を修め、現在も世界を飛び回っていらっしゃる山崎さんを本気で尊敬した。

・なんのために私たちは学ぶのか、人生は迷い続けるという言葉が刺さりました。私は今勉強というものに追い込まれていると感じる時があります。今回のこの言葉を聞いて私はなんのために勉強しているのかを考えさせられました。考えると分からないものもあり、それを見つけていくことが必要だとも思いました。「人生は迷い続ける」については共感しました。絶対的な正解はなく、不正解もない、そういう中で生きている中で、私たちは、周りの人を頼りにし、自分の意志を貫いて、最善を尽くすことが必要だと思いました。









